

令和7年産 水稲講習会



目次

※下線部は変更のあった箇所、
マーカー部は資材の基準量が掲載されています。

項目	ページ番号
○ <u>昨年からの変更点&講習会資料の見方</u>	P 1
○ <u>水稻栽培ポイント</u>	
<ul style="list-style-type: none"> ▶<u>種子消毒～催芽</u> 塩水選・温湯消毒・薬剤消毒・催芽 ▶<u>種まき</u> 実施のポイント・<u>育苗培土</u> ▶<u>育苗～移植</u> 育苗時の注意点・移植時の注意点・<u>基肥施肥基準</u> ▶<u>育苗時の病害虫防除薬剤一覧</u> 	P 2
<ul style="list-style-type: none"> ▶<u>中干し・穂肥</u> 中干しの効果・穂肥時期の管理・<u>穂肥施肥基準</u> 幼穂の剥き方 ▶<u>出穂期・収穫</u> 出穂期の管理・収穫前の管理・台風・大雨対策について 	P 3
<ul style="list-style-type: none"> ▶<u>土づくり対策</u> 有機物の鋤込み・前作がある場合の施肥 <u>水稻栽培に必要な要素一覧</u>・<u>土壌改良剤一覧</u> 	P 4
<ul style="list-style-type: none"> ▶<u>農薬使用について</u> 農薬使用において、特に注意すべきこと ラベル表示(使用基準)の遵守義務 ▶<u>薬剤希釈倍率表</u> 	P 5
<ul style="list-style-type: none"> ▶<u>除草剤一覧</u> ▶<u>本田防除剤使用基準</u> 	P 6

項目	ページ番号
○ <u>水稻雑草チェックシート</u>	
▶ <u>初中期一発除草剤で取りこぼした雑草について</u>	P 7
○ <u>水稻病害虫防除ポイント</u>	
<ul style="list-style-type: none"> ▶<u>スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)</u> ▶<u>苗立枯病</u> ▶<u>いもち病</u> 	P 8
<ul style="list-style-type: none"> ▶<u>紋枯病</u> ▶<u>内穎褐変病</u>・<u>もみ枯細菌病</u> ▶<u>カメムシ類</u> 	P 9
<ul style="list-style-type: none"> ▶<u>ウンカ類</u> ▶<u>コブノメイガ</u> ▶<u>水稻害虫</u> 	P 10
▶ <u>除草剤(ノビエ)の使用時期について</u>	P 11
○ <u>令和7年 JA北九稲作ごよみ</u>	
○ <u>関係機関連絡先等</u>	背表紙裏

昨年からの変更点

【追加】

- ・田植え後のガス抑制・けい酸補給による稲体の根張り改善・病害虫抵抗性の向上資材「カキテツ」を新規採用しました。
- ・初中期一発除草剤の「サラブレッドKAI フロアブル・ジャンボ」に代わり、低コスト・安定効果な初中期一発除草剤「サラブレッドG0 フロアブル・ジャンボ」を採用しました。

【削除】

- ・一部記事の削除（ぬかゼリー・タニシトラップ他）
- ・終売により清新培土の記載を削除

【その他】・軽微な修正（文章・薬剤の適用等）

講習会資料の見方

育苗～移植

育苗時の注意点
 太陽シートでの育苗中はシート表面に水が溜まらないよう注意する。また、苗が4~5cmになったら撤去する。育苗期間が20日以上になると、苗いもちの発生率が高くなるので注意する。生育不良や葉色が落ちた場合は、水0ℓに対して硫酸30gを溶かし、1箱当たり500mlを目安に追肥する。苗立枯病・苗いもちの発生には十分注意する。

移植時の注意点
 徒長苗は、活着や初期生育が悪くなるので注意する。登熟期間の高温を避けるため、多植を適期に行う。
 ●夢つくし 6月1日～5日頃
 ●元気つくし 6月20日～25日頃
 移植後は3～5日を目安に除草剤を散布する。⇒P8
 補植用の置き苗は、いもち病の発生元となるので、移植後7～10日を目安に除去する。
 移植後はタニシの動きに注意する。ジャンボタニシ対策⇒P10

肥料名	基肥施肥基準				
	一般肥料(10a当たり)		基肥一発肥料(10a当たり)		
品種名	バスト444 (14-14-14)	新スーパー1+くん1号 (10-6-6)	Jコト2000 (20-10-10)	Jコト2000中稲 (20-10-10)	有機IΔJコト256 (12-5-6)
夢つくし	30～35kg 【側条：30kg】	40kg 【側条：35kg】	35kg 【側条：30kg】		60kg
元気つくし	35kg 【側条：30kg】			35～40kg 【側条：35kg】	
ヒノヒカリ	35kg 【側条：30kg】			40kg 【側条：35kg】	

タイトル

一目で記事の内容がわかるようになっており、確認したい項目を探しやすくなっています。

ポイント①

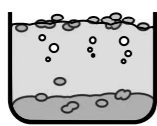
それぞれのトピックの基本的な注意点や防除のポイント、防除薬剤が記載されています。

図解&ポイント②

図による説明や、病害虫の特徴・注意点が記載されています。

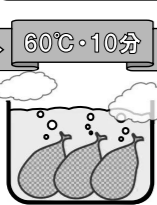
令和7年産 水稻栽培ポイント

塩水選



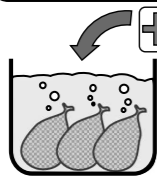
- 比重はうるち1.13、もち1.08で行う。
- 浮いた籾は除去し、沈んだ籾を使用する。
- 塩水選後は流水でよく洗い、1時間以内に次の作業に入る。

温湯消毒



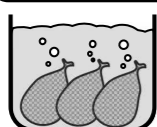
- 60℃のお湯で10分間消毒する。
- 消毒袋には籾を入れすぎないようにする。(7~10kg)
- 一度にたくさん入れすぎるとお湯の温度が下がって消毒効果が落ちるため、2~3袋にとどめる。
- 温度の上げすぎに注意する。途中の足し湯も避ける。
- 消毒中は定期的にゆすったり、もんだりして中までしっかり温度を伝える。
- 消毒後は冷水で袋の内部まで十分冷やし、催芽に入る。

薬剤消毒



- スミチオン、テクリードC、ベンレート3種混合の薬液に24時間浸漬して消毒を行う。
- 消毒時は袋をよくゆすり、内部まで十分浸透させる。
- 浸漬後はできるだけ乾燥させてから催芽に入る。

催芽



- 消毒後は4~5日ぐらい水につけ、はとむね状態にする。【積算温度100℃:水温20℃で5日間(100℃)】
- 1日1回水を入れ替える。水を入れ替える際、袋の上下を入れ替える。
- 水の量は、種子:水が1:2になるようにする。

種子消毒~催芽

○塩水選の比重

種別	比重	食塩	硫安
うるち	1.13	1.94kg	2.68kg
	1.10	1.42kg	1.92kg

(水10ℓに対して)

○種子消毒剤

薬剤名	倍率	適用病害虫
テクリードCフロアブル	200倍	ばか苗病・もみ枯細菌病 いもち病・苗立枯細菌病
スミチオン乳剤	1000倍	イネシソガレセンチュウ
ベンレート水和剤	500~1000倍	いもち病

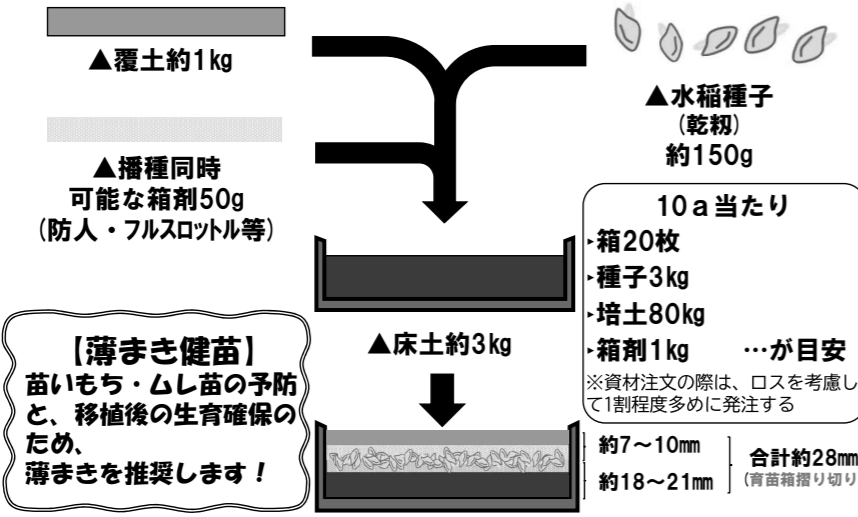
(いずれも24時間浸漬)

○催芽の目安



稲穂病・葉枯病・いもち病・雑草対策

【薄まき健苗】
苗いもち・ムレ苗の予防と、移植後の生育確保のため、薄まきを推奨します！



育苗培土		
資材名	N-P-K 【苗箱1箱換算】	特徴・注意点
こめパワーマット	0.8g・0.8g・0.8g	・けい酸分を主成分としたロックウール ・移植時の苗箱の重さは慣行土の50% ・播種前に十分水を含ませること
みのりエース	1.0g・1.0g・1.0g	・原料は黒ボク、あか土、まさ土、たいせき土、くん炭 ・長く育苗したい人向け

種まき

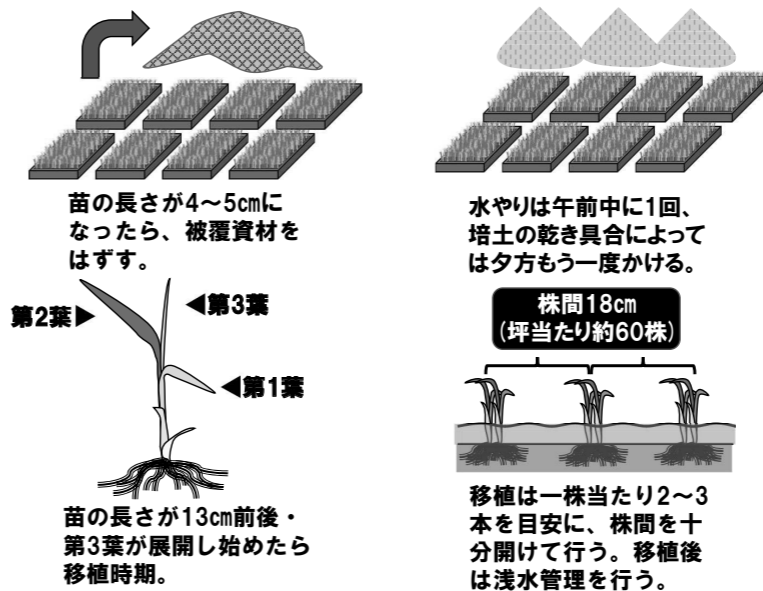
○実施のポイント

- ・播種前の床土には十分水を含ませ、覆土後、発芽するまで灌水しない。
- ・箱の中で籾の偏りがないように、まんべんなく均一に播種する。

○コラム

☆薄まき・厚まきのメリット・デメリット...

薄まき	
メリット	・苗の生育が良くなり、移植後も根張りや活着がよくなる。 ・太く丈夫な苗になる。
デメリット	・生育の仕方・移植時の株間設定によっては欠株が発生する。
厚まき	
メリット	・田植時の欠株が少ない。
デメリット	・気候によっては苗いもちやムレ苗が発生する。 ・培土の養分を摂り合うため、生育が鈍る。 ・箱剤使用の場合、移植時に1株当たりの薬剤量が減る。



肥料名	基肥施肥基準				
	一般肥料(10a当たり)		基肥一発肥料(10a当たり)		
品種名	バスト444 (14-14-14)	新スーパーくん1号 (10-6-6)	Jコト2000 (20-10-10)	Jコト2000中稲 (20-10-10)	有機IMコト256 (12-5-6)
夢つくし	30~35kg 【側条:30kg】	40kg 【側条:35kg】	35kg 【側条:30kg】		60kg
元気つくし	35kg 【側条:30kg】			35~40kg 【側条:35kg】	
ヒノヒカリ	35kg 【側条:30kg】			40kg 【側条:35kg】	

育苗~移植

○育苗時の注意点

- ・太陽シートでの育苗中はシート表面に水が溜まらないよう注意する。また、苗が4~5cmになったら撤去する。
- ・育苗期間が20日以上になると、苗いもちの発生率が高くなるので注意する。
- ・生育不良や葉色が落ちた場合は、水10ℓに対して硫安30gを溶かし、1箱当たり500mlを目安に追肥する。
- ・苗立枯病・苗いもちの発生には十分注意する。

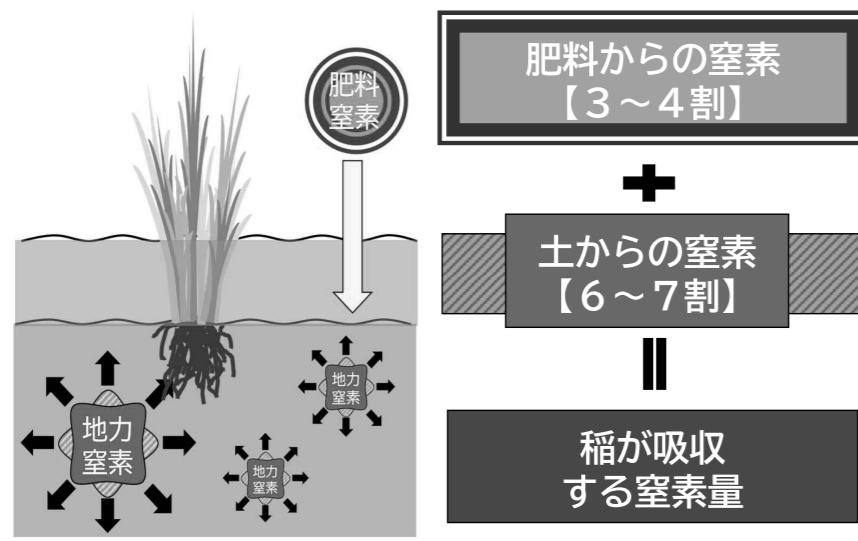
○移植時の注意点

- ・徒長苗は、活着や初期生育が悪くなるので注意する。
- ・登熟期間の高温を避けるため、移植を適期に行う。
- 夢つくし 6月1日~5日頃
- 元気つくし 6月20日~25日頃
- ・移植後は3~5日を目安に除草剤を散布する。 ⇒ P6
- ・補植用の置き苗は、いもち病の発生元となるので、移植後7~10日を目安に除去する。
- ・移植後はタニシの動きに注意する。 ジャンボタニシ対策 ⇒ P8

育苗時の病害虫防除剤一覧

使用時期	適用病害虫	薬剤名	使用倍率	使用量及び方法
			成分数	
種子消毒	イネシソガレセンチュウ	スミチオン乳剤(注)1	1000倍	種子10kgの場合 水20ℓに対し スミチオン乳剤:20ml テクリードCフロアブル:100ml を混用し24時間浸漬
			200倍	
	ばか苗病・もみ枯細菌病 いもち病・苗立枯細菌病	テクリードCフロアブル	200倍	
育苗用土壌及び育苗期間中	苗立枯病・ムレ苗防止 根の生育促進	ベンレート水和剤(注)2	500倍	24時間浸漬 又は 0.5ℓ/箱灌注 (※播種時~播種7日後)
			1	
育苗用土壌及び育苗期間中	苗立枯病・ムレ苗防止 根の生育促進	タチガレエースM液剤	500倍	播種時又は発芽後に 500倍溶液を 0.5ℓ/箱灌注 ★(育苗期間中 1回可能)
			2	
育苗用土壌及び育苗期間中	苗立枯病・ムレ苗防止 根の生育促進	タチガレン液剤	500倍	灌水代わりに500倍溶液を 0.5ℓ/箱灌注
			1	
箱施肥	【ウンカ対策】 いもち病・ウンカ類 イネミズゾウムシ・コブノメイガ ニカメイチュウ・イネツトムシ	防人箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日
			3	
箱施肥	【ウンカ対策】 いもち病・紋枯病・ウンカ類 イネミズゾウムシ・コブノメイガ ニカメイチュウ・イネツトムシ	フルスロトル箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日
			4	

(注)1 イネシソガレセンチュウが一部目立ちます。確実な予防(温湯消毒もしくは、スミチオン乳剤使用)を実施しましょう。
 (注)2 使用時は少量の水でのり状に練り、規定水量と混合します。薬剤効果を保つため24時間浸漬後の種籾は十分乾燥させましょう(最低でも2~3時間は風乾しましょう)。
 ○ ウンカ類による被害が増えてきています。昨年発生が目立った圃場は、ゼクサロン剤(防人・フルスロトル)の使用をお勧めします。



肥料からの窒素
【3～4割】

土からの窒素
【6～7割】

稲が吸収する窒素量

土づくり対策

○有機物の鋤込み

・鋤込んでからの経過日数により窒素の残存量が変わるが、基本的にれんげ後では移植の25日～30日以上前に鋤込み、基肥は控えめにし、穂肥で調整する。
・有機物の分解時に土壌の微量元素（鉄・マンガン等）の溶脱を促進するのでミネラルG等の土壤改良資材を併用する。
・稲の活着後は、有機酸やガスの発生による根腐れ等の障害を防止するために、移植後はガス抜きを行う。

○前作がある場合の施肥

・大豆後地力が中程度が高い場合は2～3割減肥する。地力が低い場合は減肥無し。
・大豆-麦-水稲の場合は通常通りの施肥。
・麦稈を鋤込む場合、麦わら分解時に肥料を消費するので1～2割増肥する。
・野菜後は肥料が残っている場合があるので、JA・普及センターへ相談の上減肥する。

○土づくりと地力の維持・増進…
昔から「水稲は地力で作れ」と言われるように、水稲は土壌からの地力窒素に大きく頼る作物で、水稲栽培において、冬場の土づくりは最も重要です。
地力とは、土壌に含まれる腐植(有機物)のことで、肥料を捕まえる力のことを言います。地力は何も作付けしなくても年々消耗するので、稲わらの鋤込みや、堆肥や土壤改良資材を活用し、地力の維持・増進に努めましょう。

成分		効果・注意点
必須三要素	窒素 (N)	水稲の生育や、籾の充実に影響する。過剰に施用すると過繁茂となり、倒伏や病害虫の発生を助長する。
	りん酸 (P)	稲の細胞分裂に関わり、生育の盛んな分けつ期に多く必要とされる。不足すると、草丈・葉面積・茎数が不足し、出穂成熟期が遅れる。
	カリウム (K)	タンパク質の合成に必要で、窒素が多いほど必要量も多くなる。最高分けつ期と幼穂形成初期に欠乏しやすいので、穂肥で調整する。
生育に必要な微量元素	けい酸 (Si)	根から吸収され、稲全体が丈夫になる。倒伏防止や、病害虫抵抗性の向上・高温障害の軽減が見込める。
	マンガン (Mn)	光合成を助け、生育の促進に作用する。不足すると生育不良・秋落ち(登熟期以降の生育不良)の要因となる。
	鉄 (Fe)	有機物の分解で発生する硫化水素を無害化し、根腐れを防止する。不足すると生育不良・秋落ちの要因となる。
	苦土 (Mg)	光合成に必要な葉緑素の構成成分であり、不足すると葉の黄化により生育不良やいもち病などの病害を誘発する。

※上記の要素については多すぎても少なすぎても生育に影響があります。土壌診断の活用や栽培基準を参考に、施肥設計を行い適切に施用しましょう。

○土壤改良材を効果的に活用するには、土壌診断を行いましょう。

資材名	土壤改良材(土づくり資材) ※成分表はパッケージの表示順とは異なるためご注意ください										
ミネラルG	【効果・特徴】鉄分の補給により根を障害から守り、けい酸の吸収を良くする。酸性土壌の補正及び鉄分補給。 【散布時期】作物の無い時期に散布。										
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分(酸化鉄)	りん酸	ほう素(リチウム)	腐食酸	マンガン	標準施肥量(10a)
		17~20	2~4.0	43~47	35~40	18~23	1.5~3.0	微量		1.0~2.0	140~200kg
けい酸加里	【効果・特徴】けい酸の補給により稲を強くし、倒伏の軽減、病害虫抵抗性の向上、受光体制の向上を行う。根張りが良くなり、肥料の吸収を助け丈夫な稲作りができる。 【散布時期】基肥散布時に40kg、又は中干し前に20kg散布。										
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン	標準施肥量(10a)
	20	34	4					0.1			20~40kg
とれ太郎	【効果・特徴】作物へのけい酸吸収利用率が高く、施肥量や施肥労力の軽減に役立つ。根張りを良くし倒伏の軽減や、酸性土壌の補正効果も。 【散布時期】荒起こし前、又は水田耕起時に散布。										
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン	標準施肥量(10a)
		30	12	40			6				60~80kg
シリカサポート1号	【特徴・効果】老朽化した水田で不足している鉄(Fe)や、りん酸、苦土を含む土づくり資材。少ない施肥量でもけい酸の効果が期待でき、けい酸によって茎や葉が丈夫になることで、倒伏軽減や受光体勢、登熟効果を高める効果が期待できる。 【散布時期】基肥散布時に80kg、又は中干し前に40kg散布。										
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン	標準施肥量(10a)
		20	1	32		10.8	3				40~80kg

資材名	土壤改良材(土づくり資材) ※成分表はパッケージの表示順とは異なるためご注意ください										
ミネリッチ	【特徴・効果】ミネラルGとようりん・けい酸加里を配合した省力タイプ。けい酸は茎葉を丈夫にし、鉄・マンガンは根を健全に維持し活力をつけ、倒伏防止や病害虫に対する抵抗性を高める。 【散布時期】作物の無い時期に散布。										
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分(酸化鉄)	りん酸	ほう素(リチウム)	腐食酸	マンガン	標準施肥量(10a)
	2	21	6.5	45	30~35	12~15	6	微量		0.5~1.0	100kg
リンスター30	【特徴・効果】リンスターのpHはほぼ中性でECも低く、土壌pH・ECを変えずにりん酸・苦土が補給できる。 【散布時期】基肥時期に散布。										
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン	標準施肥量(10a)
			8				30				20~30kg
アヅミン	【特徴・効果】堆肥の投入できない圃場の代替品。稲わらと同時に鋤きこむことで地力増進を行う。 【散布時期】稲刈り後散布(堆肥の代わりになります)										
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン	標準施肥量(10a)
			3						40~50		40kg
カキテツ	【特徴・効果】カキガラの有機石灰と転炉スラグの無機石灰により、作物にとって最適な土壌pHに調整。硫化水素の発生抑制。けい酸の補給による根張りの改善、倒伏の軽減、病害虫抵抗性の向上 【散布時期】基肥時期に散布										
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン	標準施肥量(10a)
	0.1~0.2	7~10	1.0~1.5	46	43	7~10	0.7~1.0	微量		1.0~1.5	90~120kg

除草剤一覽

対象	時期	薬剤名	使用量 (10a)	使用可能回数	使用推奨時期 (移植後)	薬剤効果 範囲				
				成分数						
初期	雑草の少ないほ場	ピラクロンフロアブル (注1)(注5)	500ml	1回	移植直後	ノビエ 1.5葉				
				①						
初中期一発処理剤	漏水田	アピログロウMX1キロ粒剤 (注5)	1kg	1回	早期 5~10日 普通期 3~7日	ノビエ 3.0葉				
				④						
	一般田 ホタルイ コナギ アゼナ	ラオウ1キロ粒剤 (注5)	1kg	1回	早期 5~10日 普通期 3~7日	ノビエ 2.5葉				
				④						
				サラブレットGOフロアブル (注5) / ジャンボ			【フ】 500ml 【ジャ】 400g	1回	早期 5~10日 普通期 3~7日	ノビエ 2.5葉
							④			
ウニングランジャンボ	500g	1回	早期 5~10日 普通期 3~7日	ノビエ 2.5葉						
		③								
生育中期	生育中期のイネ科雑草対策	クリンチャー1キロ粒剤 【湛水散布】	①1kg ②1.5kg	2回以内	①移植後7~20日 ②移植後25~35日 (収穫30日前まで)	ノビエ ①4.0葉 ②5.0葉				
	生育中期の広葉雑草対策	バサグラン粒剤 【落水散布又はごく浅く湛水して散布】	3~4kg	1回	移植後15~55日 (収穫45日前まで)					
	生育中期のイネ科・広葉雑草対策	レプラス1キロ粒剤 / ジャンボ 【湛水散布】	【粒】 1kg 【ジャ】 400g	1回	移植後14~35日 (収穫60日前まで)	ノビエ 4.0葉				
生育後期	生育後期のイネ科対策 (アゼバシリ除草可能)	クリンチャーEW 【湛水散布又は落水散布】 【展着剤を加用使用】	水25~100% に薬剤100ml	2回以内	移植後20~40日 (収穫30日前まで)	ノビエ 6.0葉				
	広葉雑草対策	バサグラン液剤 (注2) 【落水散布又はごく浅く湛水して散布】	水70~100% に薬剤500~700ml	2回以内	移植後15~55日 (収穫45日前まで)					
	生育後期のイネ科・広葉雑草対策 【クサネム対策】	アレイルSC 【湛水散布又は落水散布】	水50~100% に薬剤500ml	1回	移植後20日~40日 (収穫45日前まで) 出穂始期15日前まで	ノビエ 5.0葉				
	生育後期のイネ科・広葉雑草対策	クリンチャーバスME液剤 (注2) 【落水散布又はごく浅く湛水して散布】	水70~100% に薬剤1000ml	2回以内	移植後15~40日 (収穫50日前まで)	ノビエ 5.0葉				

注1 雑草が多い圃場での初期剤・初中期一発処理剤の併用について

●雑草が多い圃場では、移植直後のピラクロンフロアブルと初中期一発処理剤を併用することで、より効果的に雑草処理をすることができます。

注2 バサグラン液剤・クリンチャーバスME液剤について

- ① 高温条件では薬害を生じることがあるので、散布後高温が予想される場合は夕方などに散布しましょう。
- ② 散布する前に落水状態にして水の出入りを止め、散布後少なくとも3日間はそのままの状態を保ちましょう。
- ③ 散布後の降雨で薬剤の効果が落ちる場合があるので、晴天が続く時に散布しましょう。

注3 水田用農薬に係る止水期間の徹底について

●農薬の流出を防止するために初中期一発処理剤の使用に当たっては、1週間程度の止水期間を徹底しましょう。

注4 雑草の除草剤処理について

●代掻き~移植~除草剤散布までの間隔が空くと、適期散布でも雑草の生育が進み、確実な効果が発揮されない場合がありますので注意願います。

注5 移植同時処理剤について

●ピラクロンフロアブル・アピログロウMX1キロ粒剤・ラオウ1キロ粒剤・サラブレットGOフロアブルについては同時処理が可能です。

<湛水散布について>

●湛水とは水をためておくことで、湛水散布の薬剤については水田に水をためた状態で散布しましょう。

本田防除剤一覽

散布時期	体系	薬剤名	処理量 倍率 (10a)	使用可能時期	使用回数	※成分数	対象病害虫							
							いもち病	紋枯病	ツマゲロヨコバイ	ウンカ類	コブノメイガ	ニカメイチュウ	カメムシ類	スクミリンゴガイ
いもち・紋枯・ウンカ防除	粉剤	ブラシントレバリダ粉剤DL	3~4kg (※4kg)	収穫14日前まで	2回以内	④ (③)	○	○	○	○			△	※
		ノンプラス粉剤DL(補正)	3~4kg	収穫7日前まで	2回以内	②	○							
		バリダシン粉剤DL(補正)	3~4kg	収穫14日前まで	5回以内	① (①)	○							
	液剤	ダブルカットバリダフロアブル	1,000倍	穂揃い期まで	2回以内	③ (①)	○	○						
		トレボンEW	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内	①		○	○	○		△		
		ノンプラスフロアブル(補正)	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	②	○							
		バリダシン液剤5(補正)	1,000倍	収穫14日前まで	5回以内	① (①)	○							
	粒剤	ゴウケツモンスター粒剤	3kg	出穂5日前まで 但し収穫45日前まで	1回以内	③	○	○	○	○			○	
		コラトップジャンボP(補正)	500 ~650g	(注6)	2回以内	①	○							
	カメムシ・ウンカ防除	粉剤	アルバリン粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内	①			○	○		○	○
エクシード粉剤DL			3kg	収穫7日前まで	3回以内	①			○	○		○		
液剤		アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍 (※3,000倍)	収穫7日前まで	3回以内	①			○	※			○	
		エクシードフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	①			○	○			○	
粒剤		アルバリン粒剤	3kg	収穫7日前まで	3回以内	①			○	○		○	○	
		スタークル豆つぶ	250g (※250~500g)	収穫7日前まで	3回以内	①			○	※			○	
病害虫対策	液剤	ダブルカットバリダフロアブル	8倍	穂揃い期まで	2回以内	③ (①)	○	○						
		エクシードフロアブル	16倍	収穫7日前まで	3回以内	①			○	○		○		
		スタークル液剤10	8倍	収穫7日前まで	3回以内	①				○		○		
タニシ対策		ジャンボたにしくん	1~2kg	収穫60日前まで	2回以内	①						○		
		スクミノン	1~4kg	収穫60日前まで	2回以内	①						○		

●成分数の()内は、エコ農産物(減農薬・減化学)栽培を行った場合の成分カウント数です。

●コブノメイガ対策剤(トレボン粉剤DL、パダンSG水溶剤、パダン粒剤4)については別途購買店舗での個別購入をお願いします。

※パダンSG水溶剤、パダン粒剤4については劇物指定薬剤のため、購入時印鑑が必要です。

注6 <コラトップジャンボPの使用時期>

葉いもちに対しては初発20日前~初発時。穂いもちに対しては、出穂30日前~5日前までとなります。

<本田防除について>

- ①適期防除を徹底し、いもち病・ウンカ・カメムシの被害軽減に努めて下さい。
- ②農薬散布時は、近隣の農産物への飛散(ドリフト)への注意に心掛けて下さい。

<粒剤体系について>

- 粉剤や液剤の使用が難しい場合や、住宅街で防除が難しい場合は粒剤が有効です。
- 粒剤は、粉剤や液剤のように、直接病害虫にかけ効果があるのではなく、水に溶け浸透移行により効果が発揮されるため、使用する場合は重点防除時期より一週間程度早い散布となりますので、ご注意願います。
- 体系処理としては、①箱施薬+②いもち・紋枯剤(出穂前)+③カメムシ剤(出穂期)の組み合わせで栽培することが、より効果的です。

(例)①フルスロトル(箱剤) + ②ゴウケツモンスター粒剤 + ③スタークル豆つぶ

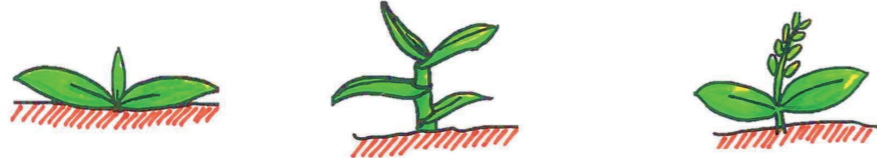
水稻雑草チェックシート

雑草が大きくなる前に初中期一発剤での処理と中後期剤の早期防除を心がけましょう。

1. ~3. のチェック項目から、イラストをひとつずつ選択し、ポイントの合計から使用に適した薬剤を確認しましょう。
※初中期一発除草剤で取りこぼしてしまった雑草について、中後期除草剤の使用を検討する際の参考にしてください。

1. 草の生え方はどんな風か

※草が大きくなっている場合は、より近い形態のものを選んでください。



・丸みを帯びた葉と、同じような形の小さな芽が出ている。
イネ科：1 Pt
広葉：5 Pt

・太めのしっかりした茎と、茎から直接葉が出ている。
イネ科：1 Pt
広葉：4 Pt

・丸みを帯びた葉と、小さな葉がたくさん付いた枝が出ている。
イネ科：1 Pt
広葉：5 Pt



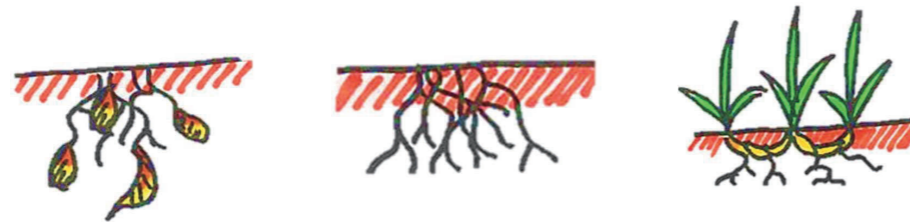
・地面を這うように茎が伸び、葉の付け根の部分から根が生えている。
イネ科：4 Pt
広葉：1 Pt

・地面から針状の葉がまっすぐ伸びている。
イネ科：2 Pt
広葉：3 Pt

・少し厚みのある葉が交互に生えている。
イネ科：3 Pt
広葉：3 Pt

・ほ場の水稻とよく似た生え方をしている。
イネ科：5 Pt
広葉：1 Pt

2. 根の生え方はどんな風か

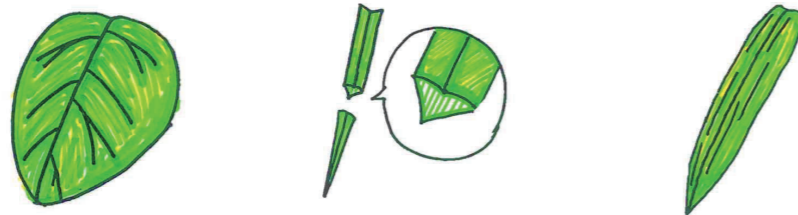


・ひげ状の根と、発達して太くなった塊茎が混在している。
イネ科：1 Pt
広葉：4 Pt

・ひげ状の根がしっかり張っている。
イネ科：3 Pt
広葉：3 Pt

・地面の下に発達した塊茎があり、塊茎の節々からひげ状の根と草が生えている。
イネ科：1 Pt
広葉：4 Pt

3. 葉の形はどんな風か



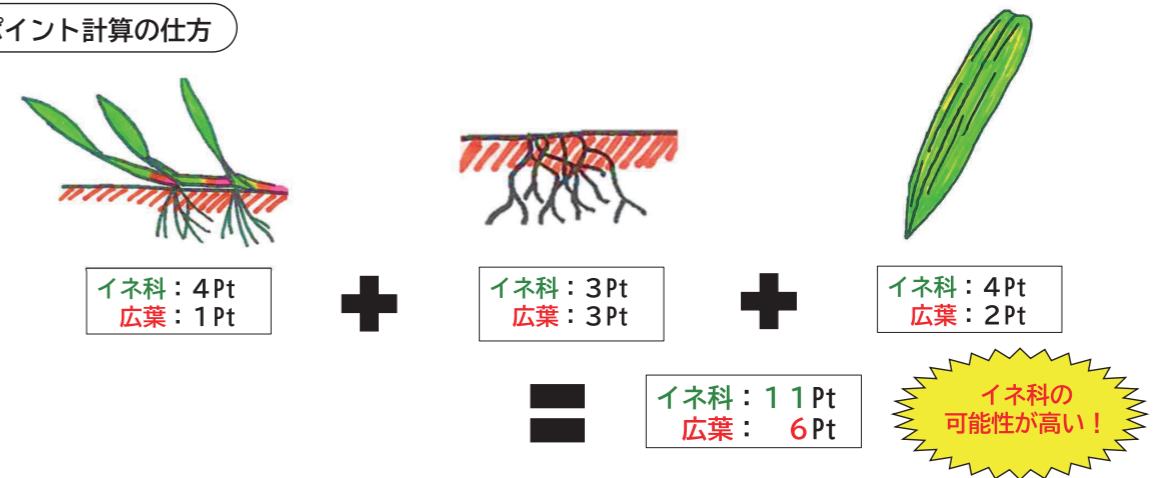
・全体的に丸みを帯び、幅の広い葉で、中心の葉脈から網目状に葉脈が広がっている。
イネ科：1 Pt
広葉：5 Pt

・三角形や円柱状の厚みのある葉で、茎との区別がつかない。
イネ科：1 Pt
広葉：4 Pt

・細身で葉の幅が一定になっており、中心の葉脈と並行して葉脈が走っている。
イネ科：4 Pt
広葉：2 Pt

ポイント計算の仕方

【例】

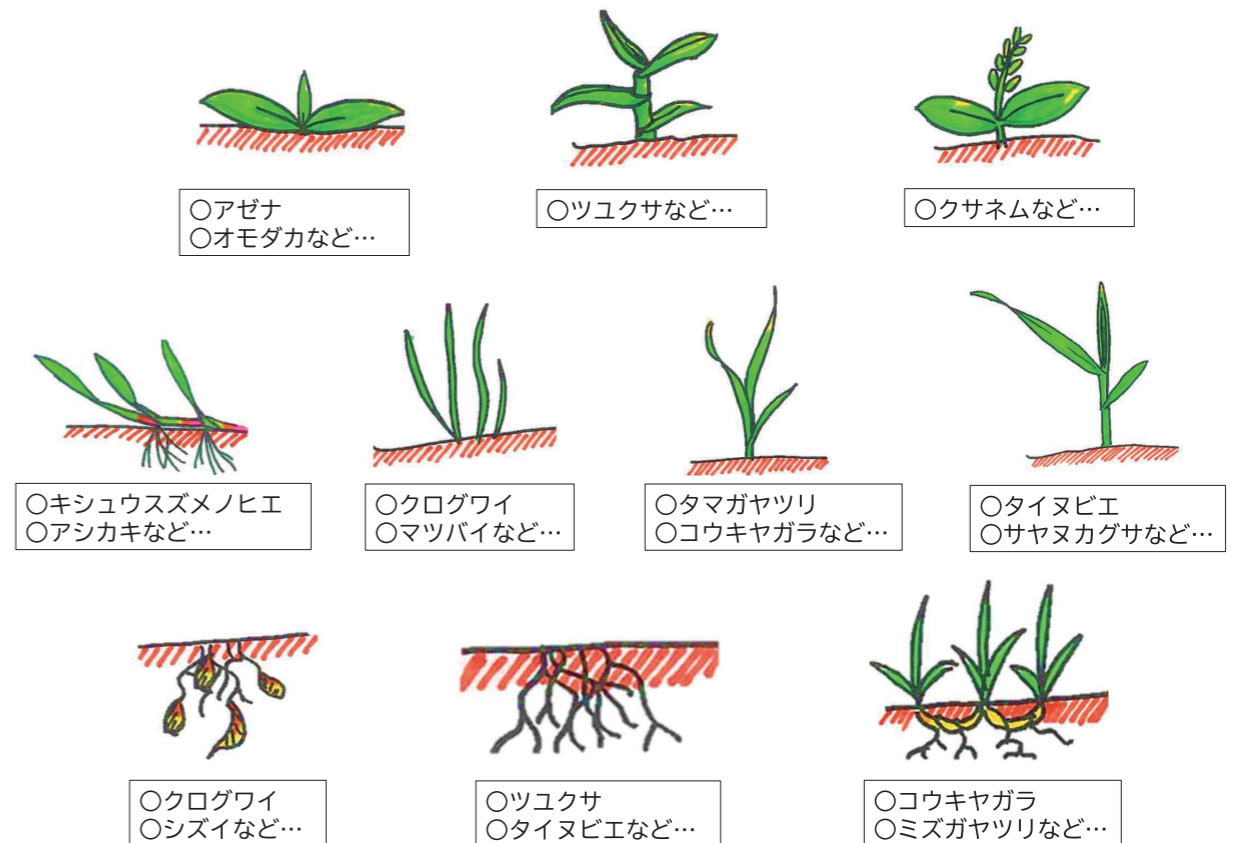


1. ~3. で選択したイネ科Pt 広葉Ptの合計を計算し、どの薬剤を選択するのが効果的か確認しましょう。

Ptの合計値	判定	薬剤名 詳細⇒P6
イネ科Ptが9~12 かつ広葉Ptが6~8	・イネ科雑草の可能性が高いです。 ・イネ科雑草に効果の高い薬剤を選択しましょう。	⇒ クリンチャー1 _{kg} 粒剤 ⇒ クリンチャーEW
イネ科Ptが3~5 かつ広葉Ptが9~15	・広葉雑草の可能性が高いです。 ・広葉雑草に効果の高い薬剤を選択しましょう。	⇒ バサグラン粒剤 ⇒ バサグラン液剤
上記以外もしくは雑草多発時	・いろいろな雑草が混在している可能性があります。 ・イネ科・広葉両方に効果のある剤を選択しましょう。	⇒ レプラス1 _{kg} 粒剤/ジャンボ ⇒ アレイルSC ⇒ クリンチャーバスME液剤

※あくまでも参考ですので、判断がつかない場合は農協までご相談願います。

雑草の名称例



水稻病害虫防除ポイント

◎物理的防除【選択】※卵塊は有毒、生体には寄生虫がいることがあるため、素手で触らない。

- ・生貝の捕殺（移植3週間後まで定期的に捕殺）
野菜くず、少し硬めのタケノコを畦畔沿いに置き誘因すると食害が軽減されるとともに、捕殺しやすい。
- ・卵塊の圧殺
ピンク色の時は水に落とすだけでよい、白くなり始めたら圧殺する。
- ・侵入防止
水口に侵入防止網（網目が9mm程度）を取り付け、水路からの新たな貝の侵入を防止する。網は水口に密着させず30cm程離して設置するとごみの詰まりが軽減される。

◎耕種的防除(水管理)【必須】

水深をできるだけ浅く保つことでタニシの移動を抑制し、食害を軽減することができる。理想は水深1cm以下にする。

ただし、除草剤を使用する場合は除草効果を安定させるために水を溜める必要があるため、除草剤の処理時～4日間は4cm程度水を溜める。

◎農業による防除【選択】

上記対策では対応できずタニシの被害が多い場合は、薬剤防除が必要となる。農業は移植後すぐ使用すること。

畔回りを深めに代かきしてタニシを集め、スポット的に薬剤散布することで、省力・省コストで防除できる。



▲食害による欠株



▲スクミリンゴガイ



▲卵塊

刈取後～移植前のスクミリンゴガイ対策

◎冬季の耕うん【必須】

移植後大きな被害の原因となる越冬対策としては、極寒期（1月～2月）には場を耕起し、土中の越冬貝を寒気にさらすこと。気温は-3℃くらいが効果的。

トラクターでの耕起時に、ロータリ回転数を上げて細かく砕土することが有効。また、用水路の越冬貝対策として、水路等の清掃を行うことも有効。土中に潜る深さは6cm未満が最も多い。

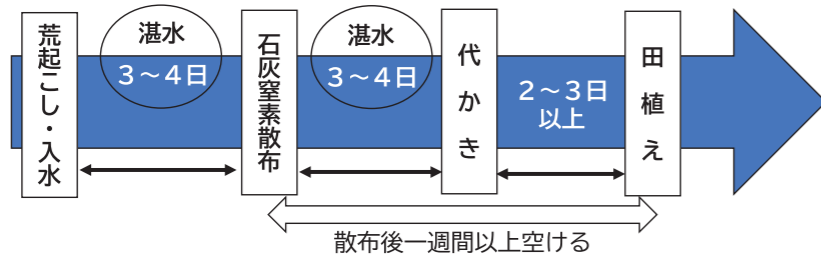
◎石灰窒素による防除（田植え前）【選択】

※無機窒素を投入するため、環境保全型農業に取組まれている方は実施不可。

荒起こし後3cm程度湛水し、3～4日放置してから石灰窒素を20～30kg/10aむらなく散布してさらに3～4日放置する。その後代かきを行い、2～3日おいてから田植えを行う。

※石灰窒素は魚毒性があるため、散布後石灰窒素を含んだ水が水路に流れ込まないように注意する。

※散布することで4～6kg/10aの無機窒素を圃場に入れることになるので、基肥は使用せずリンスター・けい酸加里等の土改材で不足成分を補う必要がある。



タニシの注意点

・人体に有害な寄生虫がいる場合があるので、素手では扱わないようにする。触ってしまった場合はよく手を洗う。

スクミリンゴガイ① (ジャンボタニシ)

○防除のポイント

- ・水が深いところに集まって食害するので、代かきは田面が均平になるように作業する。
- ・移植直後は浅水管理を行う。
- ・移植後3週間が最も被害を受ける期間となるので、圃場の状況を定期的に確認する。
- ・数が多い場合は、野菜くずやトラップを活用し、食害軽減に努める。

○防除薬剤

・殺貝薬剤(例) ⇒ P 6

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
ジャンボたにくん	1～2 kg/10a	収穫60日前まで
スクミノン	1～4 kg/10a	収穫60日前まで

・食害防止剤(例)

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
スクミンバイト3	2～4 kg/10a	発生時 【減農薬栽培】

スクミリンゴガイ② (ジャンボタニシ)

○防除のポイント

- ・スクミリンゴガイ対策で重要なのは、『地域単位』で行うこと。
- ・暖冬傾向にあるときは、越冬率が高くなり、耕うん後に死ぬまでの期間が長くなるので注意する。
- ・生息域の拡大を防ぐため、トラクター等をほ場間で移動する際は泥をしっかりと落とす。



▲トラクターによる耕うん



▲耕うんにより地表に現れたスクミリンゴガイ



▲リゾプス属菌

▲ムコール属菌

▲リゾクトニア属菌



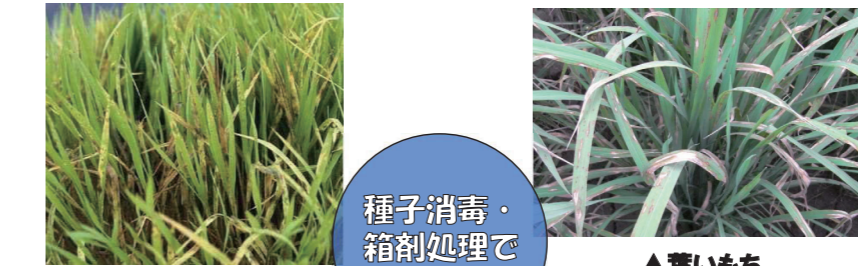
▲トリコデルマ属菌

▲フザリウム属菌

▲ビシウム属菌

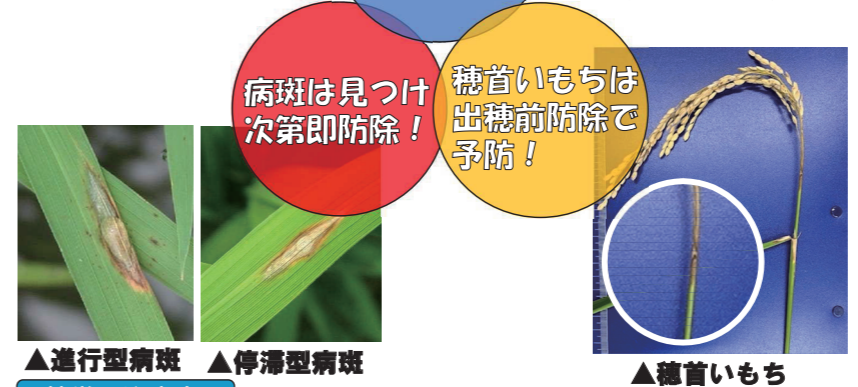
特徴と注意点

- ・水稻育苗期に発生する病気。土壌伝染や出芽～緑化期の温度・湿度の差が大きいとき等発生の原因はさまざま。
- ・育苗箱の中で円形に生育が抑制されたり、枯れこんだりするのが特徴。また、病徴が進むと芯葉が容易に引き抜けるようになる。



▲苗いもち

▲葉いもち
(ずり込み症状)



▲進行型病斑 ▲停滞型病斑

▲穂首いもち

特徴と注意点

- ・育苗期～成熟期にかけて広く発生する。
- ・夏季の低温多雨・日照不足により発生しやすくなるので気象条件には十分注意する。
- ・感染が早いほど罹病株が少数でも収量への影響が大きいため、早めの防除が重要。

苗立枯病

○防除のポイント

- ・昨年発生した場合は苗箱をしっかりと洗浄・消毒する。
- ・種子更新・種子消毒を徹底する。
- ・極端な厚播きをしない。
- ・出芽～生育期の温度較差が無いよう管理を行う。
- ・発生した場合は、速やかに健全な苗箱と別管理をする。

○防除薬剤

・育苗箱の消毒(例)

薬剤名	倍率	散布方法
イチバン	500～1000倍	瞬時浸漬 又は散布

・種子消毒剤(例) ⇒ P 2

薬剤名	倍率	散布方法
テクリードCフロアブル	200倍	24時間浸漬

・育苗中の防除(例) ⇒ P 2

薬剤名	倍率	散布方法
ベンレート水和剤	500～1000倍	1箱に500ml 灌注処理
タチガレエースM液剤	500～1000倍	1箱に500ml 灌注処理

いもち病

○防除のポイント

- ・種子消毒を徹底し、苗いもちを出さない。補植苗は早めに除去する。
- ・窒素過多で葉色が濃いと発病しやすいので、施肥量には十分注意する。
- ・葉いもちに対する薬剤防除は、初期程効果が高いので早めの防除を行う。

○防除薬剤

・種子消毒剤(例) ⇒ P 2

薬剤名	倍率	使用方法
テクリードCフロアブル	200倍	24時間浸漬
ベンレート水和剤	500～1000倍	12～24時間浸漬

・移植前の防除【箱施薬】(例) ⇒ P 2

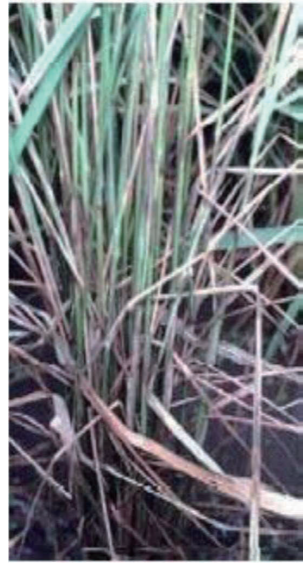
薬剤名	使用量	使用方法
防人箱粒剤	50g/箱	均一に散布する
フルソットル箱粒剤		

・本田防除(例) ⇒ P 6

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
ブランチバリア粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで
ダブルカットバリアフロアブル	1000倍	穂揃期まで
ゴウケツモンスター粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで 但し収穫45日前まで



▲停滞型の病斑



▲進行型の病斑

特徴と注意点

- ・葉鞘や葉、ひどいときには穂等まで侵す病気で、稲体の水分上昇を妨げ倒伏しやすくするため減収につながる。
- ・高温多湿な条件を好むため、夏場は発生に注意する。
- ・菌は土壤中で越冬するため、前年発生していた場合は翌年も注意が必要。

紋枯病

○防除のポイント

- ・箱剤処理を行い、初期の感染を予防する。
- ・施肥基準を守り、窒素過多にならないように注意する。
- ・出穂期前～出穂期の適期防除を徹底し、病斑の進行がみられる場合は補正防除を行う。

○防除薬剤

・移植前の防除【箱施薬】(例) ⇒ P 2

薬剤名	使用量	使用方法
フルソトル箱粒剤	50g/箱	均一に散布する

・本田防除(例) ⇒ P 6

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
プラントバリア粉剤DL	3~4kg/10a	収穫14日前まで
ダブルカットバリアフロアブル	1000倍	穂揃期まで
ゴウケツエンスター粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで 但し収穫45日前まで



▲ミナミアオカメムシ



▲ホソハリカメムシ



▲イネクロカメムシと被害痕



▲吸害による斑点米

特徴と注意点

- ・水稻登熟期に稲穂を加害し、斑点米・充実不良の原因となる。
- ・斑点米が0.1%混入すると1等格付けにはならない。
- ・穂ではなく、葉を加害する種類もある。(イネクロカメムシ)

カメムシ類

○防除のポイント

- ・畦畔の雑草から本田へ侵入してくるので、出穂2週間前までに除草作業を行う。
- ・薬剤防除は、穂揃期後7~10日後に実施するのが効果的。(穂が傾き始めたくらいが目安)
- ・近年被害が増加しているイネカメムシについては、防除時期が異なるため注意が必要。(出穂直後)

○防除薬剤

・本田基幹防除(例) ⇒ P 6

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
アルバリン粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで
エクシード粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで
アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫7日前まで
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで
アルバリン粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで
スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで



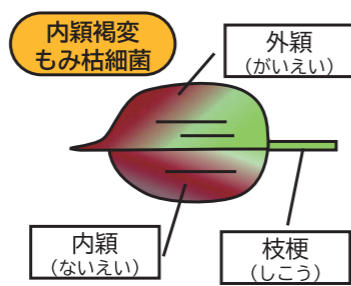
▲内穎褐変病



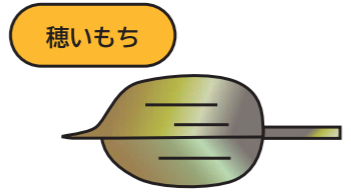
▲もみ枯細菌病



▲穂いもち



内穎・もしくは籾全体が褐変する。枝梗は変色しない場合が多い。



籾の一部、もしくは籾全体が灰褐色に変色する。枝梗も変色する場合が多い。

**内穎褐変病
もみ枯細菌病**

○防除のポイント

- ・施肥量が多いと発生しやすい傾向があるため、肥料のやりすぎ、特に追肥の多用は避ける。
- ・種子消毒・箱施薬・本田防除の体系的な防除が最も防除効果が高い。
- ・多発時はブラシフロアブル・ノンプラスフロアブルでも効果が十分に発揮できないため、出穂期の防除を徹底する。

○防除薬剤

・種子消毒剤(例) ⇒ P 2

薬剤名	倍率	使用方法
テクリトCフロアブル	200倍	24時間浸漬

・移植前の防除【箱施薬】(例) ⇒ P 2

薬剤名	使用量	使用方法
防人箱粒剤	50g/箱	均一に散布する
フルソトル箱粒剤※	50g/箱	均一に散布する

※内穎褐変病は移植当日散布の登録
・本田防除(例)

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
ブラシフロアブル	1000倍	出穂期
ノンプラスフロアブル	1000倍	
ノンラス粉剤DL	4kg/10a	

イネカメムシの発生に注意しましょう!

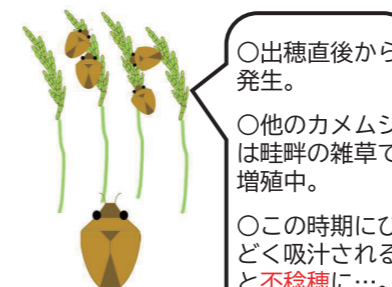
○近年被害が増加しており注意が必要です。防除は既存の薬剤(エクシード・アルバリン)で対応可能ですが、**防除の時期が既存のカメムシ類と異なる(出穂期~)**ため、既存のカメムシ類と合わせた防除が困難です。**また、日中は株元にいるため防除時は注意が必要です。吸汁による斑点米で等級・品質が低下するうえ、実の充実前から加害するため、不稔(充実不良)や充実不足となり収量減にもつながります。**
回覧の営農情報や、水稻講習会等で発生状況を周知しますので、適期防除を逃さないようにしましょう。



▲イネカメムシ



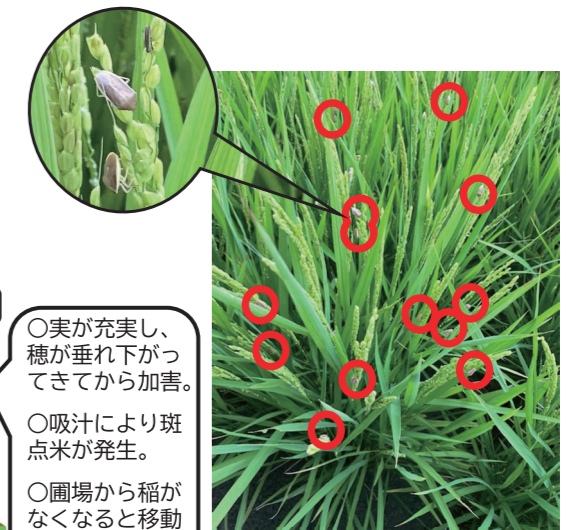
▲イネカメムシによる被害粒
基部に被害が集中している。色彩選別機により除去しにくい。



▲出穂期直後



▲穂揃期14日後



▲出穂直後の稲を加害するイネカメムシ(丸印)

不稔穂

- 実が充実し、穂が垂れ下がってきてから加害。
- 吸汁により斑点米が発生。
- 圃場から稲がなくなると移動し、熟期が遅い品種ほど被害が大きくなる。

- 出穂直後から発生。
- 他のカメムシは畦畔の雑草で増殖中。
- この時期にひどく吸汁されると不稔穂に…。



▲トビイロウンカ(長翅)



▲トビイロウンカ(短翅)



▲セジロウンカ



▲ヒメトビウンカ



▲トビイロウンカ(幼虫)

特徴と注意点

・梅雨前線に乗って海外から数回にわたって飛来、世代を経るごとに爆発的に増加する。(トビイロ・セジロ)
・秋季に高密度となって稲を吸汁し枯死・倒伏させる「坪枯れ」が発生する。

ウンカ類 ①

○防除のポイント

・ゼクサロン(ピラキルト)剤配合の箱施薬(防人・フルソット)での防除が効果的。
・基幹防除(夢:7月末、元気:8月中旬)は必ず行う。加えて、飛来状況に応じて補正防除を行う。(飛来後第2世代への防除が効果的)
・感受性が低下している薬剤(アプロード等)の使用は避ける。

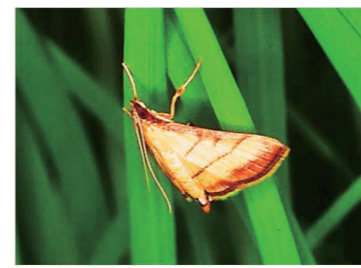
○防除薬剤

・移植前の防除【箱施薬】(例)⇒P2

薬剤名	使用量	使用方法
防人箱粒剤	50g/箱	均一に散布する
フルソット箱粒剤		

・本田基幹防除(例) ⇒P6

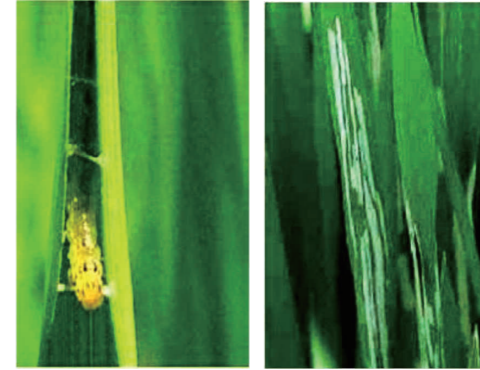
薬剤名	倍率・使用量	使用時期
アラントリバリダ粉剤DL	3~4kg/10a	収穫14日前まで
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで
ゴウカフンスター粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで 但し収穫45日前まで



▲コブノメイガ(成虫)

成虫は直接水稻に加害することはないが、雌は1匹当たり150~200個の卵を産む。薬剤による防除効果は薄い。

幼虫は葉をつづり合わせ、葉をかすり状に食害する。幼虫の間に薬剤防除を行うのが効果的。



▲コブノメイガ(幼虫) ▲幼虫による食害

特徴と注意点

・ウンカと同様に梅雨前線に乗ってやってくる害虫、主に幼虫が葉を食害する。
・出穂期前後の発生が収量に大きく影響するため、多発時は特に飛来後第2世代幼虫の防除が重要。

コブノメイガ

○防除のポイント

・箱施薬での防除が基本。
・成虫は葉色が濃い稲に好んで産卵するので、遅植えや窒素過多な施肥は避ける。
・多発時は本田防除剤による防除を行う。(成虫発生最盛期から7~10日後が目安)
・出穂期の上位3葉を加害されると減収につながるため、予防的な防除が必要。

○防除薬剤

・移植前の防除【箱施薬】(例)⇒P2

薬剤名	使用量	使用方法
防人箱粒剤	50g/箱	均一に散布する
フルソット箱粒剤		

・本田防除(例) ⇒P6

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
トレボン粉剤DL	3~4kg/10a	収穫7日前まで
パダンSG水溶剤	1500倍	収穫21日前まで

※パダンSG水溶剤は劇物指定のため、購入時印鑑が必要。

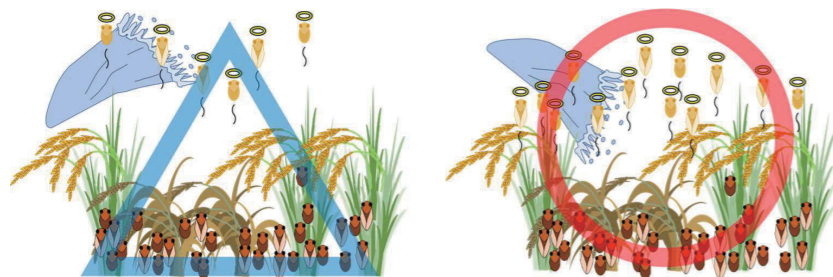


トビイロウンカによる坪枯れ



坪枯れ発生時の株元

坪枯れ発生時の薬剤防除のコツ



・上から振りかけるように散布すると、葉や穂に邪魔されて株元のウンカにかかりにくい。

・下に向かって散布すると、株元のウンカにまで薬剤がかかる。

特徴と注意点

・坪枯れ発生時は、早めの防除・刈取を心がけ、被害の拡大防止に努める。
・収穫前の薬剤防除は収穫前日数・使用回数に気を付ける。

ウンカ類 ②

○防除のポイント

・粉剤・液剤は効果が早いですが、粒剤は効果が出るまで時間がかかるため防除適期の5~7日前の散布を心がける。
・坪枯れ・稲の黄化が発生し、薬剤散布をする際は、できる限り株元にかかるように散布する。(左図)
・薬剤のかかり方、ウンカの飛来状況によっては複数回薬剤の散布が必要な場合があるので、圃場の状況には十分注意する。

○防除薬剤

・補正防除(例) ⇒P6

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
アルバリン粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで
エクシード粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで
アルバリン顆粒水溶剤	3000倍	収穫7日前まで
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで
アルバリン粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで
スタークル豆つぶ	250~500g/10a	収穫7日前まで



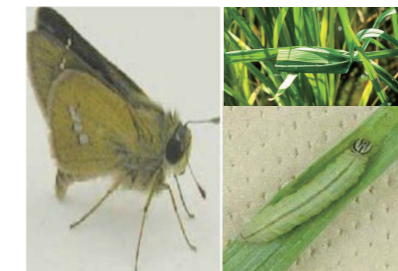
▲ツマグロヨコバイ
稲の吸汁、ウイルス病の媒介(黄化萎縮病・萎縮病)



▲イネミスゾウムシ
葉の食害(風傷みしやすくなる)



▲ニカメイチュウ
葉鞘の食害、茎の食害(心枯れ・穂の出すくみ)



▲イネツトムシ
葉の食害、苞の作成(生育抑制・充実不良)

特徴と注意点

・水稻生育時に発生する害虫。現在は箱施薬による防除が一般化し、収量に直接影響するような被害は発生しにくい。多発時は別途防除が必要。

水稻害虫

○防除のポイント

・箱施薬での防除が効果的。
・窒素過多で軟弱な稲を好んで加害するので、過剰な施肥は避ける。
・多発時は本田防除剤による防除を行う。
・薬剤によっては効果のある生育ステージに制限があるので圃場の状況と、薬剤の適用をしっかりと確認する。

○防除薬剤

・移植前の防除【箱施薬】(例)⇒P2

薬剤名	使用量	使用方法
防人箱粒剤	50g/箱	均一に散布する
フルソット箱粒剤		

・本田防除(例) ⇒P6

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
トレボン粉剤DL	4kg/10a	収穫7日前まで
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで

※薬剤によっては適用がないものもあるので注意

コラム

除草剤(ノビエ)の使用時期について

葉齢と使用時期

○下図に記載されているのは、その剤のノビエに対する薬剤効果範囲の上限葉齢です。
○記載葉齢以上での使用は、効果が十分に発揮できなくなりますので、**早めの時期を意識して**使用しましょう。

○除草剤にはそれぞれ使用推奨時期があります。本ページを参考に、目安をご確認ください。
※広葉雑草については本誌P6で有効な薬剤・使用時期をご確認ください。

ノビエの成長速度

○下図の**1葉期**は、移植後1週間程度の時期とされています。
○更に、**3葉期**への成長は**約10日**と非常に短く、気温が高いと早まる傾向があるので、適期を逃さないよう注意しましょう。
○**移植同時処理も有効です。**

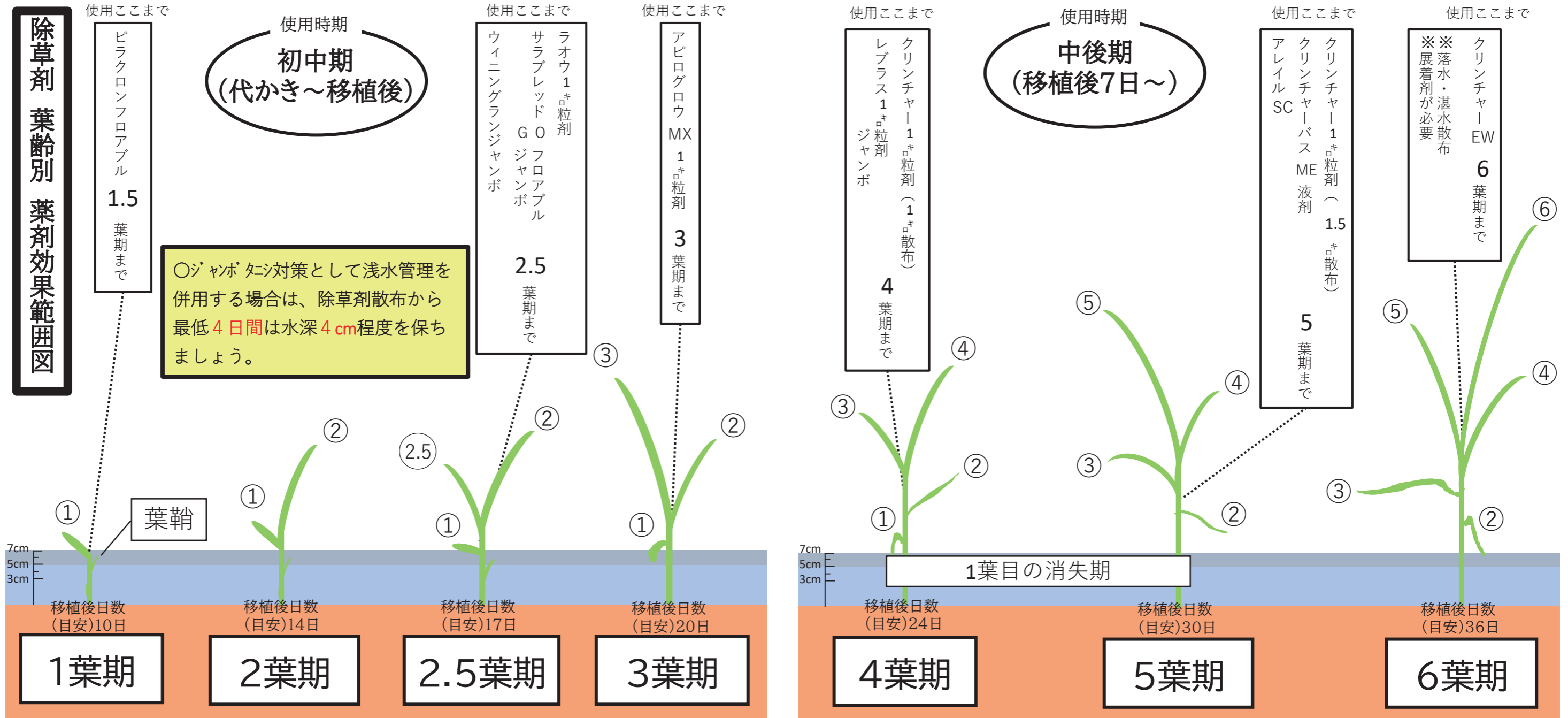
散布後の水管理

○散布後、処理層の形成・安定に**約3日**かかるので、この日数は湛水を保ちましょう。
○河川への薬剤流出防止の観点から**7日間の止水管理**も合わせて徹底しましょう。
※ジャンボ対策として浅水管理を併用する場合は水深に注意しましょう。

薬剤と水深の関係

○ジャンボ・粒・フロアブル等の拡散剤は、使用前に**しっかりと湛水**しましょう。
○水量が少ないと、効果が劣ったり、**薬害の原因**となる場合があります。
フロアブル・粒剤→5cm程度
ジャンボ剤→7cm程度
※下図もご確認ください

出典 大島 保夫. 神奈川県における水田雑草の生育特性(神奈川県農業技術センター研究報告 第150号) 出典 シンジェンタJP 「ヒエの基礎知識-しっかり」と把握しよう。水田の重要雑草「ヒエ」について。 https://www.syngenta.co.jp/cp/articles/20100401_01 出典 クミアイ化学工業株式会社「水稲用除草剤の上手な使い方(九州地域版)」 https://www.syngenta.co.jp/cp/articles/20100401_01




令和7年 JA北九稲作ごよみ

「お問い合わせ先」

- 西部管農経済センター 若松管農 TEL:093-741-2266 ●遠賀管農経済センター 遠賀管農一課 TEL:093-282-5678 遠賀購買 TEL:093-282-3070
- 八幡管農経済センター 八幡管農 TEL:093-618-0130 【県・行政】
- 東部管農経済センター 西中管農 TEL:093-451-9210 ●北九州普及指導センター TEL:093-601-8855
- 曾根管農経済センター 曾根購買 TEL:093-471-0631 ●JA北九 https://www.ja-kitakyu.or.jp

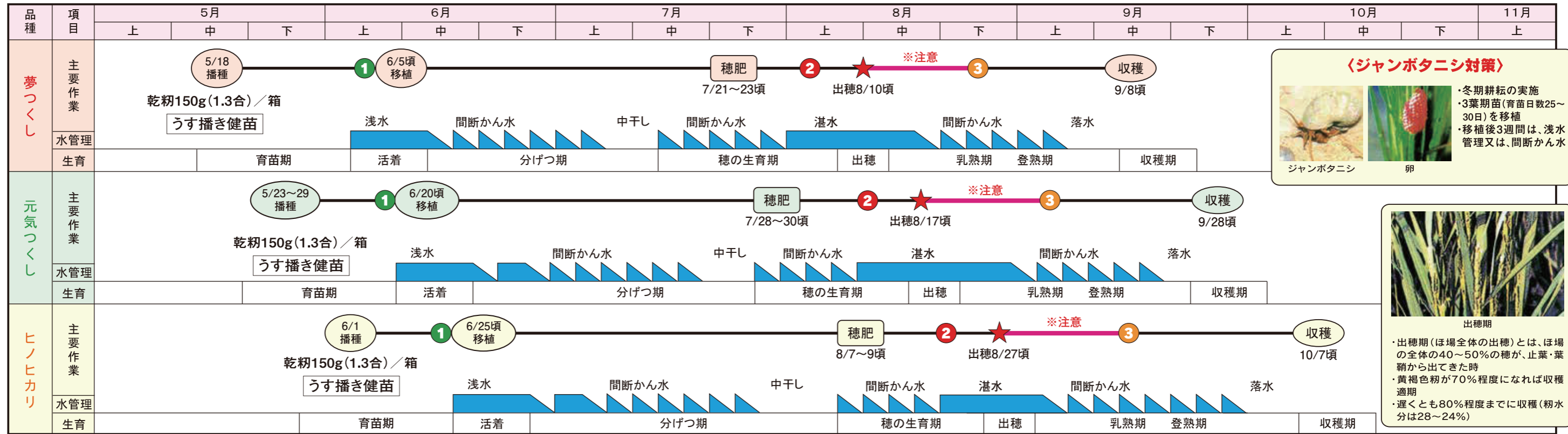
【ホームページアドレス】



①②③は基幹防除

作成年月：令和6年12月

※「夢つくし」と「元気つくし」は、早植えすると乳白・心白が多くなるなど品質の低下を招くので、移植時期には注意しましょう!!




〈ジャンボタニシ対策〉



- ・冬期耕耘の実施
- ・3葉期苗(育苗日数25~30日)を移植
- ・移植後3週間は、浅水管理又は、間断かん水

ジャンボタニシ 卵



出穂期

- ・出穂期(ほ場全体の出穂)とは、ほ場の全体の40~50%の穂が、止葉・葉鞘から出てきた時
- ・黄褐色粉が70%程度になれば収穫適期
- ・遅くとも80%程度までに収穫(籾水分は28~24%)

※注意→稲の開花期の防除はミツバチへの影響が考えられます。開花期の殺虫剤散布は避けましょう。

米の品質向上・収量増加の鉄則

- 種子更新は必ず毎年行う
- 根の活力・伸長を増進するため、中干しを行う
- 適期移植、適期刈り取りを行う
- いもち病・ウンカ・カメムシ類防除の徹底
- 病害虫の予防のため基幹防除を実施
- 病害虫の多発時は補正防除を実施

JA北九 TAC通信

最新の『営農経済情報』をタイムリーにお届けします!

LINE 公式アカウント

友だち登録をお願いします!



1.育苗のポイント

用土の準備 10a当り(20箱)

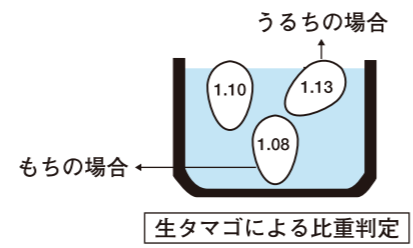
培土使用の場合	
70kg~80kg	覆土のみなら 20kg~24kg

塩水選 目的 軽い籾は病気等にかかっていた可能性が高いので、健康な種子を選別し、発芽を均一に揃える。

芒や枝梗を除去して塩水選を行う ※塩水選液の作り方は下表の通り

【水10ℓ(5升5合)に入れる食塩又は硫酸の量】 (目安)

種別	比重	食塩	硫酸
うるち	1.13	1.94kg	2.68kg
	1.10	1.42kg	1.92kg
もち	1.08	1.11kg	1.46kg
	1.06	0.90kg	1.10kg



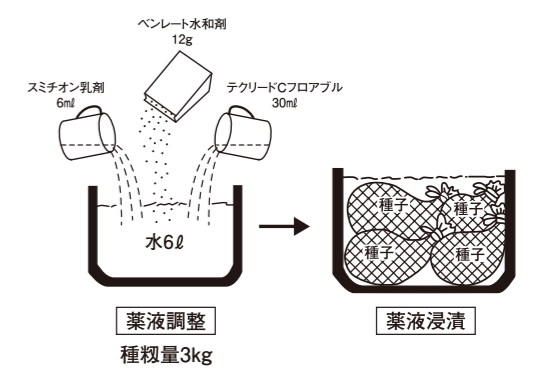
種子消毒 目的 テクリードCフロアブル…いもち病・苗立枯病・苗立枯細菌病・ばか苗病・もみ枯細菌病等を予防する。スミチオン乳剤…イネシンガレンセンチュウを予防する。ベンレート水和剤…いもち病に効果が高い。(使用時は少量の水で、のり状に練ってから規定水量に混合)

- 薬剤消毒の場合
テクリードCフロアブル(200倍)とスミチオン乳剤(1000倍)及び、ベンレート水和剤(500倍)を水に入れ、24時間浸漬、種籾の袋を良くゆすり、気泡を除く
浸漬後の種籾の袋は十分乾燥させる(薬剤効果)。

【使用薬量基準表】 (10a当り)

種籾量	成分数②(①)	3kg
テクリードCフロアブル	成分数②(①)	30ml
スミチオン乳剤	成分数①	6ml
ベンレート水和剤	成分数①	12g
水	量	6ℓ

- 温湯消毒の場合
籾を袋詰めし、60℃のお湯の中に10分間漬けて、流水ですぐ冷やす
※塩水選後すぐに実施し(1時間以内)、足し湯は行わないこと(発芽率が低下)
※ベンレート水和剤は播種時~播種後7日後までの灌注処理(500倍、500ml/箱)でもよい。



肥料・農薬の購入はJAから

II.土づくり 健全な土、丈夫な根づくりのために、毎年土壌改良資材を施用しましょう。(kg/10a)

土壌改良資材 (いずれか使用)	ミネラルG	140~200	冬場に散布鋤込
	とれ太郎	60~80	移植前に散布鋤込
	カキテツ	90~120	
	シリカサポート1号	40~80	
	けい酸加里	40	

III.施肥基準(平坦地の場合) (kg/10a)

品 種	基 肥 + 穂 肥 体 系				穂肥なし体系
	基 肥	穂 肥 (下記2肥料のいずれか使用)			基肥一発肥料
	ベスト444	NK化成	きたきゅう 水稲用追肥 (有機入り)	穂肥の目安 施用時期	Jコート 2000
夢つくし	30~35	15	30	出穂前 20日~18日	35 Jコート2000
元気つくし	35	15	30~35	幼穂長 3~5mm	35~40 Jコート2000「中稲」
ヒノヒカリ	35	15	30~35	葉色板 3.5基準	40 Jコート2000「中稲」

- ※1. 中山間地の施肥は、平坦地より1~2割減肥
- ※2. Jコート2000は、地力の高い田や野菜後作水稲及びいもち病の出やすい田には使用しない
- ※3. 穂肥で油かす(窒素成分5%)を使用する場合は、出穂前25日、幼穂の長さが1mm程度の時期に50kg/10a施用する

V.基幹防除 ※本田農薬(②・③)使用上の注意 (10a当り)

番号(上表)	対象病害虫	防 除 体 系	成分数	防除適期
①	いもち病 イネミズゾウムシ ウンカ類 コブノメイガ ニカメイチュウ イネツトムシ	防人箱粒剤 50g/箱	③	播種時 (覆土前)
		フルスロトル箱粒剤 50g/箱 ※左記対象病害虫+紋枯病	④	移植当日

- ※箱施薬剤の処理時期は移植前日が効果的です。
- ※ヒメトビウンカによる縞葉枯病が前年目立った圃場は、上記箱剤の使用と稲刈り後の鋤き込み等対策をしましょう。

VI.補正防除 (10a当り)

病害虫	防除農薬						防除適期
	粒剤	成分数	粉剤	成分数	液剤(希釈水量)	成分数	
スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	スクミノン	1~4kg	①				移植直後
いもち病	コラトップジャンボP コラトップ粒剤5	10~13個 3~4kg	①	ノンプラス粉剤 DL	3~4kg	②	初期発生時
紋枯病				バリダシン 粉剤DL	3~4kg	① (①)	初期発生時
トビイロウンカ (多発時)	アルバリン粒剤 スタークル豆つぶ	3kg 250~500g	①	アルバリン(スタークル) 粉剤DL	3kg	①	発生確認後~ 収穫7日前まで
カメムシ類 (多発時)	アルバリン粒剤 スタークル豆つぶ	3kg 250g					33g(100ℓ) 50g(100ℓ)
コブノメイガ	パダン粒剤4	3~4kg	①	トレボン 粉剤DL	3~4kg	①	成虫最盛期から 7~10日後

- ※ウンカ多発時など、農薬を複数回散布する場合は、農薬ラベルの使用法の確認または、お近くのJA営農及び購買店舗にご相談下さい。
- ※農薬の成分数は化学合成成分のカウントです。
- ※コブノメイガ対策剤(パダン粒剤4、パダンSG水溶剤)については、購買店舗にて購入時印鑑が必要。

IV.雑草防除

項 目	除草剤	10a当り使用量	使用時期	成分数	推奨使用時期
基本処理 一般圃場 初・中期	ウィニングランジャンボ	10個(500g)	移植直後~ノビエ2.5葉期	③	移植後3~10日
	サラブレッドGOフロアブル	500ml	移植直後~ノビエ2.5葉期	④	移植後3~10日
	ラオウ1キロ粒剤	1kg	移植直後~ノビエ2.5葉期	④	移植後3~10日
	アピログロウMX1キロ粒剤	1kg	移植直後~ノビエ3.0葉期	④	移植後3~10日
中・後期 (雑草が残った場合)	クリンチャーEW ※使用時は展着剤を加用(混用)する	100ml (水25~100ℓに希釈)	移植後20日~ノビエ6葉期 収穫30日前まで	①	移植後20~40日 イネ科雑草発生田 落水・灌水処理
	バサグラン(Na)液剤	500ml~700ml (水70~100ℓに希釈)	移植後15日~55日 収穫45日前まで	①	移植後15~40日 広葉雑草多発田 落水処理し3日後に入水 夕方散布
	バサグラン(Na)粒剤	3~4kg	移植後15日~55日 収穫45日前まで	①	
	クリンチャーバスME液剤	1,000ml (水70~100ℓに希釈)	移植後15日~ノビエ5葉期 収穫50日前まで	②	移植後15~40日 イネ科・広葉雑草発生田 落水処理し3日後に入水 夕方散布
	レブラス1キロ粒剤	1kg	移植後14日~ノビエ4葉期 収穫60日前まで	④	移植後15~40日 イネ科・広葉雑草発生田 灌水処理

- 有用生物(ミツバチ等)への影響回避対策
稲の開花期の防除はミツバチへの影響が考えられます。開花期の殺虫剤散布は避ける。(生育ステージ:※注意)
- アルバリン粉剤DLとアルバリン顆粒水溶剤は穂揃い期10日後より前に使用しない。

番号(上表)	対象病害虫	粒剤体系	成分数	粉剤体系	成分数	液剤体系	成分数	防除適期
②	穂いもち 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	ゴウケツモンスター 粒剤3kg (出穂5日前まで但し、 収穫45日前までに灌水散布)	③	ブラシントレ バリダ粉剤DL 4kg	④ (③)	ダブルカットバリダフロアブル 100ml(100ℓの水で希釈)	③ (①)	出穂直前
						エクシードフロアブル 50ml(100ℓの水で希釈)	①	
③	カメムシ類 ウンカ類	アルバリン粒剤3kg または、 スタークル豆つぶ250g	①	アルバリン(スタークル) 粉剤DL3kg	①	アルバリン(スタークル)顆粒 水溶剤 カメムシ50g ウンカ33g (100ℓの水で希釈)	①	穂揃い期 10日後

VII.注意すべき病害虫

ミナミアオカメムシ ホソハリカメムシ イネカメムシ コブノメイガ トビイロウンカ
 ◀短翅▶ ▶長翅▶

葉いもち 穂いもち 縞葉枯病 紋枯病 トビイロウンカによる坪枯れ

生産履歴をつけましょう!

農薬の適正使用と他作物への飛散防止に注意しましょう。

キ
リ
ト
リ

関係機関連絡先

遠賀営農経済センター

遠賀営農一課 TEL : 093-282-5678

FAX : 093-282-7440

遠賀購買店舗 TEL : 093-282-3070

若松営農経済センター

若松営農 TEL : 093-741-2266

FAX : 093-741-2201

若松購買店舗 TEL : 093-741-1311

八幡営農経済センター

八幡営農 TEL : 093-618-0130

FAX : 093-618-0275

八幡購買店舗 TEL : 093-618-0105

東部営農経済センター

西中営農 TEL : 093-451-9210

FAX : 093-451-1035

西中購買店舗 TEL : 093-451-1040

曾根購買店舗 TEL : 093-471-0631

FAX : 093-471-7433

門司購買店舗 TEL : 093-481-1077

北九州普及指導センター

TEL : 093-601-8855

営農情報

※緊急を要する『病害虫発生状況・対策、台風情報』等の営農・防除情報については以下のホームページのご活用をお願いします。

J A北九ホームページ

<https://www.ja-kitakyu.or.jp/>

J A北九

検索

J A北九で検索！

J A北九



LINE 公式アカウント

・営農情報
・病害虫情報
・稲作情報、稲作ごよみ
・経済情報
などなど、ホームページなどに掲載している情報をいち早く配信いたします！

福岡県病害虫防除所ホームページ

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

情報HPへの
QRコード⇒



JA北九HP



福岡県病害虫
防除所HP



農薬登録情報
提供システムHP